

(様式1) 実践事例

学校名	二本松市立二本松南小学校	校長名	松本公秀		
住所	二本松市亀谷二丁目123番地	児童数	251	学級数	13
TEL	0243-23-0049	ホームページアドレス	http://www.city.nihonmatsu.lg.jp/site/minami-es/		

T・Tによる個人差に対応した算数科指導と授業改善の日常化に向けた取組

1 少人数指導の計画等

- (1) T・Tにより一人一人の実態に応じたきめ細かな指導や学習形態の工夫を通して、学力の向上を図るとともに、子どもの学習意欲を喚起し主体的に集中して授業に取り組めるように、また、自己肯定感を高めることができるようにする。
- (2) 教師の指導力向上のための研修や日々の授業の充実を図る。
 - ・チームによる授業研究会の実施と課題に応じたポイント授業の実施

2 実践の概要

(1) T・Tによる個人差に対応した算数科指導（4～6年 算数科）

① 授業開始直後の短時間「チャレンジ・タイム（3分程度）」による学習意欲の喚起、主体的な学習態度や自己肯定感を高めるための指導

<学習のねらい・教師の願い>

- 既習事項の確認や「できた!」という達成感や「わからない」ことが「わかった」という発見を大切にすること。
- 「わからない」「まちがった」「遅かった」ことを大切に頑張る力をつける。
- 「3分間」の時間を大切に「読む力、計算力、集中力、スピード」を養う。
- 間違いややり残しはその日のうちに、自主学習で取り組む習慣をつける。



<進め方>

- 自分の目標を決め、意欲的に取り組めるようにする。また、問題によっては、友達と協力する場面も設定し、授業の中でも学び合いがしやすい雰囲気作りを行う。
- プリント内容は、児童からも希望（苦手な問題、文章題、今までの復習など）をとり、プリントをノートに貼付し足跡を残している。



② 学力向上に向けた一人一人の実態に応じたきめ細かな机間指導や学習形態の工夫

<T・Tによる机間指導や授業づくり>

- 4年生のわり算の学習では、一人一人のつまずきに応じた机間指導を行う。
- T・Tで役割分担や机間指導し、本時の学習内容の確実な定着を図る。
- 自力解決や学び合いの場面（ペア・グループ）で役割を分担して指導にあたり、児童の思考力・表現力の向上を図る。



<学習形態の工夫（単元末の習熟度別学習）>

- 各学年の実態に応じて、単元によっては、単元末の習熟の時間には学級を2つに分け、子どもの実態等に合わせた習熟度別学習に取り組み、学習内容の定着を図っている。

(2) 教師の指導力向上のための研修と授業改善の日常化に向けた取組

① 授業力を高めるチーム研究

- 【研究授業<授業計画(Plan)・授業実践(Do)> → 授業リフレクション・授業観察シート<評価(Check)> → ポイント授業観察<授業改善(Action)>】の流れで、少人数のチームによる研修を行う。
- 気軽に意見の交流ができ、集まりやすい人数と各チームごとの無理のない時間の確保により、授業改善の日常化を図る。チームは3～4人、学年や研究教科（国語・算数・特別支援）、経験年数、各教員の「授業分析シート」による課題も考慮して構成する。

<研究授業> 分数のわり算 「分数のわり算を考えよう」(2/12)

1. 本時のねらい

- 真分数÷真分数の計算の仕方について、除数の逆数をかけて計算する考え方を説明することができる。
(数学的な考え方)

2. 学習過程と実践 → 授業リフレクション

学習内容・活動	T: 教師の発問 C: 児童の反応 ●課題 ○授業リフレクション
<p>1 課題をとらえる。</p> <p>(1) 前時をふり振り返り、本時の課題を設定する。 3/4dLのペンキで、板を2/5mぬれました。このペンキ1 dLでは板を何mぬれますか。</p> <p>(2) 本時のめあて 分数÷分数の計算はどのように考えたら、計算できるかな？</p> <p>(3) 分数÷分数の計算の見通しを持つ。 ・分母をなくす。 ・除数の分母をなくす。 ・通分する。</p>	<p>T: 昨日の問題で、3/4dLで2/5mぬれたら、の問題だったら、どんな式をかけた方がいいかな？ C: 2/5÷3/4です。 C: ぬれた面積÷ペンキの量=1 dLでぬれる面積</p> <p>●: 見通しの段階において、自力解決につながるように、考え方の共有化を図る必要があった。</p> <p>○ 除数の分母に目を向けさせ、自力解決の見通しを持たせ次の段階へ入ることができるようにする。</p>



- 2 自力解決する。
(1) 計算の仕方を考える。



- 3 考えたことを発表し、話し合う。
 ・ 通分して、分子同士、分母同士計算。
 ・ 分母の最小公倍数をかけ、整数にして計算。
 ・ 除数の分母を整数にする。
 ・ わる数が1になるように、逆数をかけて計算。



<手立て1> 見取りのための手立ての工夫
ア 短時間で自分の考えを書かせる。

- C: 通分して、分子同士、分母同士計算する。 $2/5 \div 3/4 = 8/20 \div 15/20$
 C: 小数で考えて計算する。 $2/5 \div 3/4 = 0.4 \div 0.75$
 C: 通分して、考える。
 C: 分母の最小公倍数をかけて、整数にして計算する。
 C: 除数の分母を整数にする。

<手立て2> コーディネートのための手立ての工夫
児童の考えを類別化し、授業展開を明確にする。

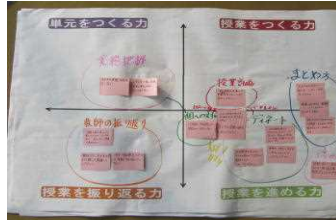
- 児童の考え方について意図的指名をして、発表させたが、児童の考え方同士をつなぐことができなかった。(分母を20に通分した児童を指名しようとしたが、児童が考えを変え、小数の考え方を発表した。そのため、同じ小数の計算をノートに書いていた児童を次に指名することとした。)
 - 児童の反応を素早く見取ったり、児童の考えの書き出しの記述について、価値付けたりできず、コーディネートに生かすことができなかった。
- なぜ、20や4をかけるのか、理由を問い、よりよい考えを求めようとする意欲を高めさせる。
 ○ □を使った穴埋めの式を提示し、わる数の逆数をかける方法について考えられるようにする。

<授業リフレクション>

- 事前研究会で共有した「授業の視点(手立て)」や「授業分析シート」に沿って、課題についての原因とその改善策について話し合った。

- 板書や指導案をもとに改善策を話し合い、書き込みや修正などとして、日々の具体的な実践に生かせるようにした。

- チームで成果や課題を共有化し、授業改善のためのポイントについて明確にし、次の実践につなげた。

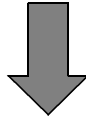


<チームによる課題の共有化>



<板書による改善策>

「授業リフレクション」での問題点や修正点を受けて授業改善に努めた。



ポイントとなる場面をチームで参観し、意見交流した。さらに日々の授業改善にチームとして取り組んだ。

② 授業改善の日常化

<ポイント授業> 課題解決に向けての具体的な取組 分数のわり算 「分数のわり算を考えよう」(4/12)

1. 本時のねらい ○ 除数の大きさに着目し、被除数と商の大小関係について、説明することができる。(数学的な考え方)
 2. 学習過程

学習内容・活動	T: 教師の発問 C: 児童の反応 ※手立て □ポイント授業参観
2 自力解決する。 (1) わる数がどのような時、商がわるる数と比べどのように変化しているか言葉でかく。 わる数と商の大きさの関係は、どのようになっているかな? (2) その理由を説明する方法を考える。 ・文章(言葉) ・数直線 ・式	※ 本時の課題について立式・解答させ、児童が正しく立式・正答しているか把握する。(手立て1) ○ 除数と商の数に目を向けさせ、商がわるる数と比べてどのように変化しているかを解決するという見通しを持たせる。 ※ 机間指導の中で、児童がどのような考え方をしているか、類別化をして把握する。(手立て2)
3 考えたことを発表し、話し合う。	※ 短い時間で友達の考え方について、どのような考えかノートに書かせ、児童の考え方について説明するために、考え方を把握する。(手立て1) □ 友達が考えた式や考え方を予想させたり再生させたりして、考え方の共有化を図るようにする。(子どもの考え方をつなぐ)

3 実践の成果と課題

(1) T・Tによる個人差に対応した算数科指導について

- 授業開始後の「チャレンジタイム」により、算数科の授業に対しての意欲も高まり集中して取り組む児童が多くなった。また、児童一人一人の実態を把握し、きめ細かな指導を行うことや役割分担し学習形態を工夫して行うことで児童の学力の向上も見られた。
- 各学年の実態に応じた、より学習効果の上がる指導方法や指導形態について検討し、授業の工夫改善を図っていく必要がある。

(2) 教師の指導力向上のための研修と授業改善の日常化に向けた取組

- 授業リフレクションでは、授業の問題点や修正点が明らかになり、事後の焦点化した取組や日々の授業改善につながった。また、チームでの共有化や授業改善に向けた協力体制も増えた。
- チームでの研修により、日常的に授業についての話題が増え、また、日々の授業について振り返り、改善するという意識も高まり、一人一人の教師の授業力向上にも結びついた。
- チームでの研修を全体に、より反映できるような取組を今後も考えていきたい。